

Q：47都道府県の名称と位置について、小学校修了までには覚えることになっているのですが、なかなか位置が覚えられず、漢字で正しく書くことができません。4年生ではどこまでやればよいのでしょうか。

A：小学校修了までには、我が国の47都道府県の名称と位置を確実に身に付け、活用する事ができるようにすることが大切です。都道府県名を漢字で正しく書き表すことを求めています。

学習指導要領解説では、47都道府県の名称と位置について、内容の（6）のAにおいて、3・4学年の段階で、以下の2つについて身に付けばよいとしています。

- ①「我が国が47の都道府県によって構成されていることが分かること。」
- ②「都道府県の名称と位置を一つ一つ地図帳で確かめ、日本地図（白地図）上で指摘できるようにすること。」

また、実際の指導に当たっては、地図帳を十分に活用することとし、例として、47都道府県の名称と位置を地図帳で確かめ、その名称を白地図に書き表す活動をあげています。

②については、都道府県の白地図を見て、その都道府県の位置がどこなのか指し示すことができたり、白地図上で示した都道府県の名称を正しく言えたりできることを意味しています。

では、学習指導要領解説にある「47都道府県の名称と位置については各学年において指導し、小学校修了までには確実に身に付け、活用できるようにする必要がある。」とはどういうことでしょうか。

「確実に身に付ける」とは、都道府県名が出てきたとき、地図がなくても頭の中に地図が浮かんできて、その位置関係がわかること。

「活用できる」とは、都道府県の名称や位置を活用して、ある事柄や場所の説明をするなど他の学習で生かせるようにすることを指しています。都道府県名を漢字で正しく書き表すことを求めています。

確実に身に付け、活用できるようにするためには、次のような日頃の実践が必要です。

- ①第3学年から第6学年までの学習の中で、地図や統計資料などに、様々な都道府県の名称が度々登場してくる。そうした学習場面においては、その都度、その都道府県の位置を地図帳の日本地図で確認したり、学習した事柄を日本地図（白地図）などに整理する。
- ②日本の都道府県を表す地図を教室に常掲するなど、教室環境を工夫する。
- ③日常の出来事や報道、他教科の学習で登場した都道府県について、地図帳や掲示した日本地図で位置を確認する。

Q:「昔の暮らし」の単元で、実際に「昔の道具」を紹介し、体験させたいのですが、近くに博物館がなく、家庭や地域に呼びかけても昔の道具が集まりませんでした。やはり実物を見せ、体験させたいのですが何かよい方法はないでしょうか。

A: 社会科見学に博物館の学習を組み入れたり、博物館に昔の道具の貸出しを依頼し、実際に体験させたりする方法があります。

地域によっては近くに博物館や郷土資料館がない。新興住宅地などで昔の道具や資料を保有している家がないことなどがあります。そこで、次の2点の活動が考えられます。

①年間行事に組み入れて、昔の道具を保有している博物館の見学を行う。

近隣の県立博物館・市立博物館・郷土資料館など、昔の道具を所有している施設があります。事前に打合せを行うことで、学芸員からの説明を受けることができたり、実際の道具に触れたりすることができる施設もあります。

その際、ただ、体験させるだけでなく、見学に行く前に学習のめあてにあった動機付けを必ず行う必要があります。

②博物館によっては、「昔の道具」の貸出しサービスを行っている所があります。

県内の博物館では、実際の体験キットを無料で貸し出しています。内容も希望によって変更ができます。また、依頼次第で出前授業を行ってもらえます。積極的に利用してみてはどうでしょう。

＜施設の紹介＞

千葉県立中央博物館 http://www2.chiba-muse.or.jp/?page_id=58

○「古い道具と昔の暮らし」体験キットの貸出し

【内容】50～80年ほど前に生活に使われていた、昔の道具をセットで貸し出してくれます。下駄やわらじを履いたり、有線放送電話に触ったり、ベーゴマやメンコ、お手玉や羽子板など、昔の遊び道具もあります。道具はすべて自由に体験できます。キット内容については相談ができます。

○出前授業

博物館の学芸員が学校に訪問し、収蔵資料等を活用しながら教育活動の支援を行います。先生方と学習内容などを協議して実施します。「古い道具とむかしの暮らし」では、道具を見るだけでなく、実際に触れ、使ってみることも取り入れます。

○デジタルミュージアム <http://www.chiba-muse.or.jp/OTONE/dougu/list.html>

昔の道具について「はたらく」「たべる」「すむ」「あそぶ」の4つのカテゴリーに分けて、実際の写真・使い方・教師向けの解説など137点の道具について掲載されています。

※この他、「昔の道具」については、常設展示も行われ、見学もできます。

Q：地域の博物館に見学に行くことになりました。事前にどのような指導が必要でしょうか。博物館を見学する上での留意点について教えてください。また、効果的な見学の仕方についても教えてください。

A：博物館の展示物についての説明は、児童向けのものは少なく、一般向けのものがほとんどで、いざ見学するとすると、児童にとって難しい内容のものが多くあります。事前に下見をしたり、学芸員などの協力を得たりして、子どもにとってわかりやすいものとなるよう配慮が必要です。

＜事前準備及び指導＞

○学芸員と教員で事前に打合せを行う。

学習のねらいや内容について事前に説明し、今回の見学の目的にあった内容の見学になるよう学芸員と十分な打合せを行うようにしましょう。

当日は、学芸員の説明を入れたり、学芸員と教師でティームティーチング方式を取り入れたりすると効果的です。

＜博物館見学の留意点：教師＞

○展示資料など、ガラスケースに入れられておらず、破損する可能性があるものがあります。展示室には、筆記用具だけを持ち込み、それ以外のカバンや傘など見学に必要なものは持ち込まないようにしましょう。そのためには事前に施設と連絡をとり、荷物を預かってもらうことの依頼や荷物の置き場所など決めておくとい良いでしょう。

○基本的な見学のマナーとして、展示物や展示ケースなどには許可なく触ったり、写真をとったりさせないようにしましょう。ただ、中には触ってもよいもの、写真を撮ってもよいものがあります。これについても、教師が事前に打合せに行き、見学場所を確認し、担当者との打合せの中で確認してください。

＜博物館の見学の仕方：児童＞

○何を調べるために（何を解決するために）見学に行くのか、目的を明確にする。

○展示物の絵を描いたり、使い方や特徴をメモしたりする。

○わからないことは学芸員に質問する。

○体験できるものは、実際にさわったり、動かしたりしてみる。

○一般の人の利用もあるため、きまりを守り、他の人に迷惑をかけない。

※実際の記録は、ワークシートや絵カードなどにまとめると後で整理しやすくなります。

絵カードにまとめる例 「むかしの道具しらべ」

①道具をよく観察しながら絵をかく。

②気づいたことを書き込む

（道具の名前、使われていた時期、道具を体験した感想、不思議に思ったこと）

道具が使われていた時期は3つに分けて記入させる。

- ・祖父祖母が生まれ育った頃 約50～70年前
- ・父母が生まれ育った頃 約30～40年前
- ・児童が生まれ育った頃 約10～現在

＜見学場所へ行くまでのコースの安全、施設内の見学時の安全＞

- ・交通安全監視のボランティアの依頼（保護者及び地域）
- ・安全ルールの確認
- ・グループ行動での役割分担

Q：資料の中に絵図や写真がありますが，これらを授業の中で利用する場合，どのように扱えばよいのでしょうか。児童への資料の提示の仕方・絵図や写真の読み取り方についてどのように指導すればよいか教えてください。

A：教科書の資料の中で絵図や写真は，学習を進める上で重要な資料として載せてあります。3年生の頃から絵図や写真の読み取り方をきちんと身に付けさせるため，指導を積み重ねていく必要があります。

授業の中で，自由な発言を促すため，「この資料（絵図・写真）からどんなことがわかりますか。どんなことでもよいので発表しましょう。」といった教師の発問が見受けられますが，かえって，児童の発言内容が拡散してしまい，話し合いが深まりません。どこに注目するのか示す必要があります。

＜資料（絵図や写真）の提示の仕方＞

拡大する 気づいたことを発表させる際，資料を拡大したものを用意し利用することで，どこのことについて発表しているのかを注目させることができます。

拡大印刷物の掲示，電子黒板（実物投影機＋電子黒板）やプロジェクタ（実物投影機＋プロジェクタ）での投影で行うことができます。

比較する 変化前の様子を表した資料と比較することで，「ちがうところはどこか」「似ているところはどこか」など視点をはっきりさせることができます。

例．6年歴史

「米づくりが広まったころの様子」の絵図を提示する場合，前時で学習した「狩りや漁をしていたころの様子」の絵図と比べることで，衣食住の様子の変化に着目することができます。

印刷する 教科書や資料集に掲載された資料を利用する場合は良いのですが，それ以外の資料（絵図・写真）を利用する場合は，全員の児童の手元にあった方がよいでしょう。近くに置いてじっくりと観察させたり，必要な場合は印をつけるなど加工なども行うことができます。

＜絵図や写真の読み取り方＞

①何を表している絵図（写真）なのか表題を読んで確かめる。

②全体を見る

・写真を見て気づいたことや気になったことをノートに書き出す。（このときは，気になったことはどんなことでも自由にメモする。多い方がよい。）

③詳しく見る。

・特に気になったところは，じっくり見て印を入れる。

じっくり見るとは・・・時代（年代），季節，時間，五感（色，香り，音，味，触）などを想像してみる。

④写真を見て思ったことや疑問があればノートにまとめたり発表したりする。

⑤絵図（写真）の中の人々の気持ちを想像する。

Q：5年生の産業学習では、グラフなど多くの資料が出てきますが、子ども達は、グラフなどの読み取りが苦手です。資料の扱い方、読み取らせ方など、どのようにしたらよいのでしょうか。

A：グラフの読み取り方の基本は、次の6点だといわれています。

- ①題 ②出典・年度 ③縦軸・横軸の単位 ④数値の読み取り
⑤変化の様子 ⑥解釈

グラフについては、3年生から学習します。グラフの読み取り方については、グラフが出てくる度にしっかりと教え、正しい読み取り方を身に付けさせてください。また、グラフの読み取りは、社会科だけでなく算数や理科でも学習します。分析については教科により変わりますが、読み取り方は同じですので、基本となる6点を徹底させてください。

＜グラフの読み取り＞

●題

何を表したグラフなのか、タイトルを見て確かめる。

●出典・年度

いつの時代（年代）のものなのか、誰が発表したのか確かめる。

●縦軸・横軸の単位

縦の列の数字、横の列の数字がそれぞれ何を示しているのかを単位を見て確かめる。

●数値の読み取り

目盛りを見て、グラフが示すおよその数を読み取る。

●変化の様子

グラフから変化の様子など読み取れること、気づいたこと、考えたことをノートにまとめる。

※変化の様子を読み取るとは

- ・右肩あがりなのか ・左肩あがりなのか ・変化なしなのか
- ・突然上がっているところはないか ・突然下がっているところはないか
- ・全体的にどのように変化しているのか

●解釈

なぜ変化しているのか理由を考えたり、調べたりする。

※その際、複数のグラフや他の資料を関連づけて、考えさせることが大切です。

＜参考＞グラフの特徴と学習する学年

棒グラフ：棒の高さで、量の大小を比較する。

折れ線グラフ：量が増えているか減っているか、変化の推移をみる。

円グラフ：全体の中での構成比をみる。

帯グラフ：構成比を比較する。

	算 数	社 会	理 科
3 年	棒グラフ（読み方・書き方）	棒グラフ	棒グラフ
4 年	折れ線グラフ（読み方・書き方）		折れ線グラフ（読み方・書き方）
5 年	帯グラフ、円グラフ （読み方・書き方）	折れ線グラフ、棒グラフ、 円グラフ、複合グラフ	棒グラフ 複合グラフ
6 年	比例・反比例のグラフ 柱状グラフ	棒グラフ、折れ線グラフ 円グラフ	棒グラフ、折れ線グラフ 円グラフ

Q：5年生の学習では、全国で各地の産業について学習するため、調べる対象が学校から遠く離れていて資料収集が難しく困っています。資料を集める方法を具体的に教えてください。

A：インターネットだけでなく様々な方法で情報収集をすることは、相手を感じながら遠隔地から情報を得る経験をつむチャンスです。それぞれの情報収集の手段にはメリット・デメリットがありますので、学習する内容や児童の経験、取材する相手などを十分に考慮に入れ、計画的に活用してみてもいいでしょうか。

●インターネット

検索により、即座に調べたい項目について多くの情報が集まるため、多面的に調べることができる点などのメリットがあります。

反面、出典が不確かだとデメリット（データに信頼性がない、集まるデータが多く、内容も小学生には合わず難しい言葉や言い回しが多いため内容が読み取れずノートに写すだけになってしまうなど）も考えられます。

そのため次のような方法を取ってみてはどうでしょう。

児童向けのホームページやリンク集などを利用する。

児童向けの検索専門のサイトがあります。そこを児童が利用するコンピュータのスタートページに設定することで、児童向けのデータが利用しやすくなります。また、学習に役立つリンク集を掲載したホームページもあります。児童の利用する資料集などにアドレスの記載がありますので利用してみてください。

- ・Yahoo!きっず <http://kids.yahoo.co.jp/>
- ・キッズgoo <http://kids.goo.ne.jp/>
- ・学習に役立つリンク集 <http://www.cabinet-cbc.ed.jp/link/link.htm>
(千葉市教育センター)

●手紙

一度に多くの児童が参加し、相手の都合を気にせずに送ることができます。手書きの文や絵で気持ちが伝わりやすく、児童側にも良い経験となります。

反面、やりとりに時間がかかります。事前に教師と相手側との打合せが必要です。

●FAX

手紙と違いやりとりに時間がかからず、繰り返しの利用も可能で、交信しているという実感もわきます。

反面、写真などを添付しても不鮮明で、文字中心のやりとりになります。これも事前の相手との打合せが必要です。

●電子メール（パソコン利用）

FAXと同じくやりとりに時間がかからず、気軽に利用することができます。また、インターネット環境にもよりますが、写真や動画なども鮮明な画像をみることが可能となります。

●電話

相手とじかにやりとりができるため、相手を身近に感じることができる方法です。

反面、電話して良い時間を聞くなど、事前に打合せをして、相手との時間調整が必要となり、負担が大きい方法です。

Q：社会科の板書の仕方がよくわかりません。基本的な板書の方法を教えてください。

A：板書により児童は、1時間の授業の流れを理解したり、学習内容を整理したり、考えを深めたりすることができるなど、授業においては大変有効なツールです。そのため、板書は、学習内容が整理され、1時間の授業の流れが児童によくわかるように構造的にまとめられている必要があります。

板書は、子どもの反応を予測し、それらの発言内容を黒板のどこに、どのように位置付けたらよいのかを事前に考えておくことが重要になってきます。これを、板書計画といいます。板書計画は、社会科の授業を行う上でとても重要となる作業です。授業が始まってからその場で考えるのではなく、必ず事前に行うようにしてください。

教科により異なりますが、社会科の板書は通常、教科書に合わせて横書きで行います。項目については、授業場面に応じて変わりますが、基本的に「単元（題材）名」「めあて（学習問題）」「資料」「予想」「調べたこと」「考えたこと」「まとめ」の流れで構成されることが多いようです。

<板書のポイント>

（1）板書の基礎・基本

- 本時の「学習のめあて」を必ず書く。
- 中心資料を、必ず板書に位置付ける。
- 色チョークの使い方を決めて、子どもに知らせておく。

例えば、「白色：資料から読みとった事実や解釈、子どもから出された考えや意見の要約など」、「黄色：集約した意見や考え、まとめ」、「赤色：重要な用語」

- 線や矢印の使い方・方向などに留意する。

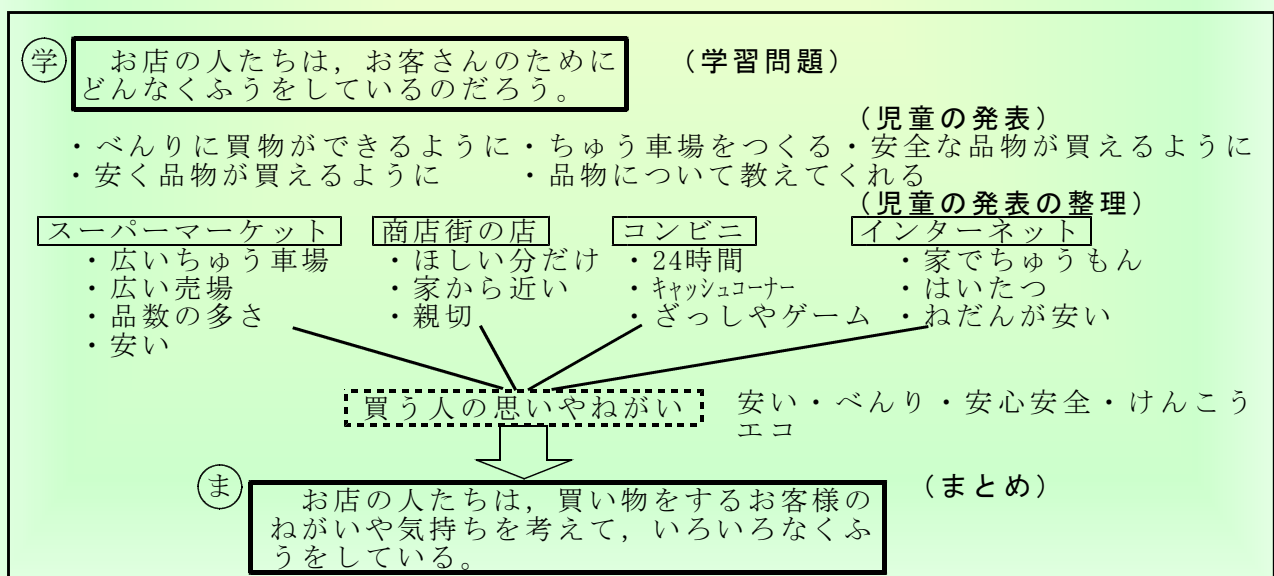
（2）板書の基本パターン

- 中心資料の比較（時代差・地域差など）を中心に、板書を構成するパターン
- 資料や取り上げた事実などを関連付けながら板書を構成するパターン
- 共通点や相違点を設けて個々の事実を整理したり、全体からどのようなことが読み取れるのかを考えながら板書を構成するパターン

<板書例>

3年生 単元名「人々のしごととわたしたちの暮らし」まとめの授業

販売店（スーパーマーケット、近所の商店街、コンビニ、直売所）の工夫や努力について、調べたことを発表し、それぞれの販売店が様々な工夫や努力をしていることについて理解する学習である。この板書例は、学習内容について整理され、児童によくわかるように構造的にまとめられている。



Q：3年生では、スーパーマーケットや工場など見学に行く機会が多いのですが、どのようなことに留意し、児童に見学させればよいのでしょうか。

A：学習問題の解決を図るために見学に行きます。めあてを達成するために、見学計画を立て、見学したいことや聞き取りたいことを決め、焦点を絞って見学させることが大切です。

3年生「お店のしごと」でスーパーマーケットへの見学を行う場合を例に説明します。この学習のめあては、「地域にあるスーパーマーケットに関心を持ち、意欲的に観察・調査し、発表する活動を通して、消費者の願いに応えた販売の工夫や商品の仕入れ先を通じた他地域とのかかわりがあることをわかるようにする。」です。

特にここでは、学習のめあてから見学を行うことで、「スーパーマーケットの販売の工夫、働く人の努力、他地域とのかかわり」について、調べることが重要になってきます。

見学までの授業の流れ

見学までは、次のような活動の流れが考えられます。

- 1 買物調べ
 - ・日ごろどんな店で買物をしているのか、なぜその店で買物をするのか考える。
- 2 見学に行こう
 - ・スーパーマーケットに行く人が多いのはなぜか予想する。
 - ・見学の計画を立て、見学メモを作る。
 - ・安全に見学ができるように、役割分担や安全についてのきまりを確認する。
- 3 店で発見（見学）
 - ・見学計画をもとにスーパーマーケットを見学し、売場の工夫について調べる。

見学計画で行うこと（質問事項・配慮事項等）

見学計画を立てる中で、「何を見てくるのか」「どんな質問をするのか」について、児童と具体的な項目を決めていきます。そして、見学メモに具体的な項目を書き込んで、児童は実際の見学に臨みます。

質問する場合、役割を決めて、あらかじめ練習しておくといよいでしょう。

○見て調べること

ここでは、実際に見学して、見つけたことを絵や言葉で表します。

例・スーパーマーケットのつくりや売場の様子（施設など）

・働く人について（服装など） ・売るための工夫（看板など）

○インタビューをして調べること

店の人に質問したことをメモする。

※相手の言葉をそのまま書かないで、箇条書にするよう指導するなど、事前に練習をさせておくといよいでしょう。

○調査方法（調査手段）

・絵や言葉に表す。 ・誰に質問をするのか。 ・質問かアンケートか。

「見学のしおり」を作り、そこに質問事項や役割などを書き、メモする場合がありますが、質問内容についてカード化し、絵や文で書き表すようにする方が便利な場合があります。児童はメモする場合、消しゴムで何度も消して書き直す場合が多いので、紙質は画用紙など厚めのものがよいでしょう。

○気をつけること

- ・お客さんのじゃまにならないようにする。（走り回らない、大声を出さない など）
- ・礼儀正しくする。（あいさつ、返事）

＜お客さんへのインタビュー例＞

こんにちは。わたしたちは〇〇〇小学校の〇年生です。〇〇について、お聞きしたいことがあります。今、お話してもよいですか。
(インタビューが終わったら………)

よくわかりました。お答えいただきありがとうございました。

- ・店の品物にはさわらない。
- ・行き帰り、施設内での安全指導
 - 行き帰りのコースの確認、グループ内の役割分担の確認
 - 安全のルールの確認